

座敷

江戸後期に改装され、天井、欄間、書院、明障子等は華麗なものに仕上げられ、前庭との関係も優れたものになっており、店の間とは異なった雰囲気創り出されている。



構え

正面の全体的な構成、大戸口、格子構の細部の比例は見事であり、それは美しい調和の中に高い格調をもったものに仕上げられている。



特に格子構は、可動式の切子付親子格子と呼ばれる特殊なものである。



窓は、虫籠窓発生以前の古い形式のものである。

御成門

江戸時代に鴨方藩主が、陣屋の代わりにこの住宅に宿泊した際、藩主がこの門を潜ったということで、御成門と呼ばれている。



襖絵



倉敷市船穂町出身の画人 小野雲鵬が、描いた鹿の群れの絵である。

■入館料		(単位：円)	
区分	(1人1回につき)	金額	
伝承館	個人	大人(高校生含む)	100
		小人(小中学生)	50
団体		20人以上の団体	80
		20人以上の小中学生	40

※シルバーカード、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳所持者は無料とする。



交通のご案内 ●国道2号及びJR鴨方駅より北約2km
●山陽自動車道 鴨方I.C.より南約1km

お問い合わせ先

浅口市かもがた町家公園

〒719-0243 岡山県浅口市鴨方町鴨方240
TEL.0865(45)8040 FAX.0865(44)6089
<http://www.kcv.ne.jp/machiya/>

■開園時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
■休園日 毎週月曜日、祝日の翌日など

所管 浅口市教育委員会事務局 TEL.0865(44)7055
文化振興課 URL:<http://www.city.asakuchi.okayama.jp/>

岡山県指定重要文化財 旧高戸家住宅



岡山県浅口市

◇旧高戸家住宅の特徴◇

ここ浅口市鴨方町鴨方にある「旧高戸家住宅」は、江戸時代鴨方藩の庄屋を世襲し、油商等を営んだ家で、藩主の宿泊所や文化人の交流の場として使われた由緒ある町家である。建築年代は、貞享4年(1687)に修理をしたという棟札から築300年以上経過しており、岡山県下に残る江戸前期の最古の町家であると同時に全国的にも最初期のものである。これは、奈良県橿原市今井町の今西家(慶安3年・1650)や豊田家(寛文2年・1662)と同時期のものである。

建物は南面し、平面は正面10間、側面4.5間、中2階建の店部分と平家建の座敷部分からなる今井型(大和)である。屋根は本格的な入母屋造と切妻造で本瓦葺き、外壁は塗屋仕上げである。構造は、店部分を主体構造とするが、それは方形平面の中央に一本の大型中柱を立てた特殊なもので、小屋組は束立構法と登り梁構法を併用している。この構造は全国的にも例がなく、この地方で発生した独自のものである。

座敷部分は落ち棟形式で、店部分に取り付けられている。その店部分の構造面は、「うちどま」と西厨子2階における、中柱の上部の鴨居、中置、梁、地棟等の継手、仕口の合理的な工法、東西厨子における登り梁の豪快な架構は見応えがある。

細部で注目すべきは「みせどま」における大戸口の格子戸、片折板戸の意匠と機能性、「みせのま」での、天井、建具、格子構の意匠と室環境である。これらは、江戸前期の素朴さの中に力強さを感じさせるものになっている。

本宅は、かもがた町家公園の中核施設として平成7年度から復元修理を行い、平成9年9月に完成した。この建物を「伝承館」と名付け、伝統的生活文化の継承の場とともに、建物博物館として保存・活用し、市民の歴史的財産として後世に残し伝えていくことにしている。平成10年3月に岡山県指定重要文化財となっている。多くの方々に、この日本屈指の町家の伝統的な住宅の良さを伝えることができれば幸いである。



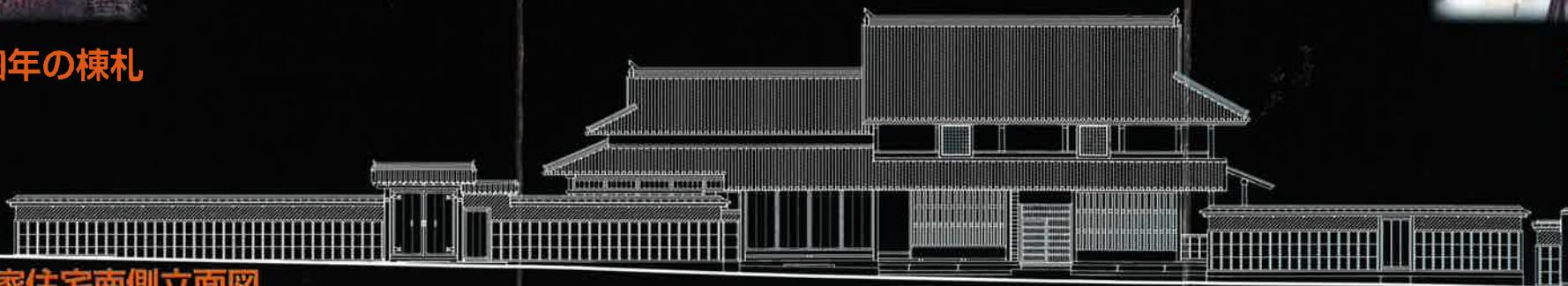
貞享四年の棟札



旧高戸家住宅平面図



かまば



旧高戸家住宅南側立面図